

## ■ 概況

1/28~2/3のNYMEX・WTI先物市場は、52.20~55.69ドルの範囲で推移した。

2月4日は、前日のOPECプラス閣僚監視委員会での現行減産体制の確認、米国原油在庫の取り崩し発表を好感し、需給改善への期待感から4日続伸、3日連続で約1年ぶりの高値を更新した。3月限の終値は前日比0.54ドル高の56.23ドル。

週末5日は、サウジアラムコが3月の欧米向け原油価格の調整金を引き上げるとの報道、バイデン政権による追加経済対策への期待感で、5日続伸した。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比4基増の299基と11週連続の増加となった。3月限の終値は前日比0.62ドル高の56.85ドル。

週明け2月8日は、引き続き、OPECプラスの減産維持、米国追加経済対策への期待感から、6営業日続伸した。また、バイデン大統領のテレビインタビューでのイラン核合意への復帰条件として、イランがまず核合意に復帰すべきだとの発言も、イラン制裁緩和には時間を要するとの観測を高めた。3月限の終値は前週末比1.12ドル高の57.97ドル。

9日は、引き続き、個人への現金給付・失業給付の拡充等を含むバイデン政権の追加経済対策の早期成立観測、米国内の新規感染者の減少・ワクチン接種の進展等新型コロナの早期収束への期待などを背景に、7営業日続伸した。3月限の終値は前日比0.39ドル高の58.36ドル。

10日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告の原油在庫の予想外の取り崩し報告などを好感し、8営業日続伸した。3月限の終値は前日比0.32ドル高の58.68ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月

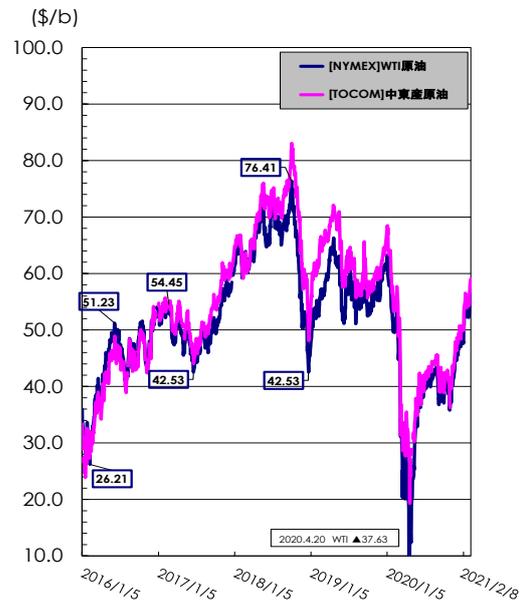
渡し)は1月28日~2月3日の間54.70~57.10ドルの範囲で推移した。2月4日58.30ドル、5日58.60ドル、8日59.40ドル、9日60.80ドル、10日60.40ドルと推移した。

為替は1月28日~2月3日の間104.27~105.01円の範囲で推移した。2月4日105.02円、5日105.54円、8日105.54円、9日105.18円、10日104.62円で推移した。

財務省が2月5日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、1月中旬の原油輸入平均CIF価格は、32,753円/klで、前旬比1,584円高、ドル建て50.33ドルで前旬比2.47ドル高、為替レートは1ドル/103.44円。

そのような中で、2月8日時点の小売価格は、ガソリンが前週(2月1日)比0.3円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油は5円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは11週連続の値上がり、軽油も11週連続の値上がり、灯油も11週連続の値上がりだった。この週(2月第2週)の原油コストは大きく値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比2.5円の値上げとなった。

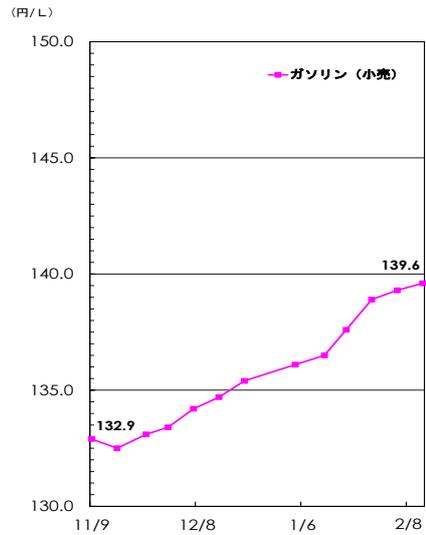
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/31 ~ 2/6	2,942 ▼ -21	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.5 ▼ -0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	2/6	11,120 ▲ 933	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/8	59.06 ▲ 4.58	▲ 5.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/8	57.97 ▲ 4.42	▲ 8.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月中旬	50.33 ▲ 2.47	▼ -20.00
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	32,753 ▲ 1,584	▼ -15,601
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	103.44 ▲ 0.11	▲ 5.87
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/8	106.54 ▼ -0.85	▲ 4.13



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/31 ~ 2/6	878 ▲ 64	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	887 ▲ 248	▼ -	
	輸出	"	103 ▼ -14	▲ -	
	在庫	2/6	2,007 ▼ -112	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/2 ~ 2/8	51.2 ▲ 1.8	▼ -3.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/2 ~ 2/8	49.7 ▲ 2.6	▼ -1.6
		(TOCOM/中部)	2/8	51.6 ▲ 1.9	▼ -2.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/8	139.6 ▲ 0.3	▼ -10.4	

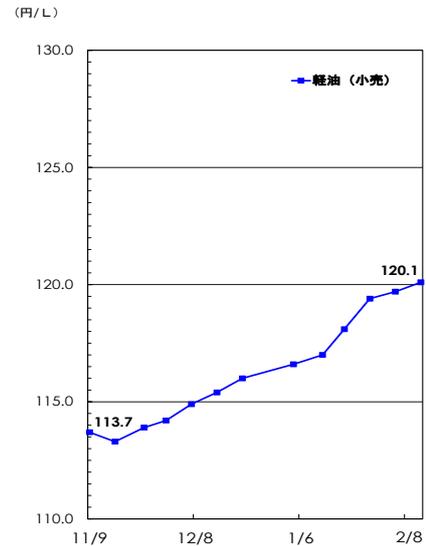
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

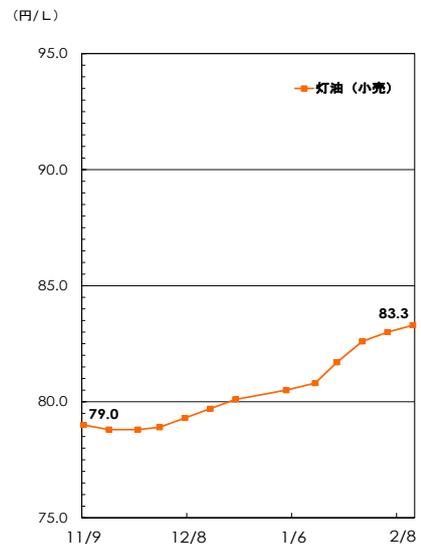
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/31 ~ 2/6	657 ▼ -12	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	661 ▲ 85	▲ -	
	輸出	"	25 ▼ -157	▼ -	
	在庫	2/6	1,588 ▼ -30	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/2 ~ 2/8	53.6 ▲ 1.2	▼ -6.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/2 ~ 2/8	55.5 ▲ 2.4	▼ -6.9
		(TOCOM/中部)	2/8	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/8	120.1 ▲ 0.4	▼ -10.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/31 ~ 2/6	332 ▼ -93	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	514 ▲ 36	▲ -	
	輸出	"	20 ▲ 20	▲ -	
	在庫	2/6	1,860 ▼ -202	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/2 ~ 2/8	53.5 ▲ 1.4	▼ -5.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/2 ~ 2/8	52.2 ▲ 2.3	▼ -1.2
		(TOCOM/中部)	2/8	54.0 ▲ 3.0	▼ -3.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/8	83.3 ▲ 0.3	▼ -10.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月10日のNYMEXのWTI先物原油は、石油需給改善への期待感から、8営業日続伸し、昨年1月以来1年ぶりの高値を記録した。米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、原油在庫が前週比660万バレル減と市場予想(100万バレル増)に反する取り崩しとなった。ただ、ガソリン在庫は430万バレル増と積み増しとなった。OPECプラスの協調減産の順調さ、米国の追加経済政策への期待感、米国での新規感染者の減少も、押し上げ要因となった。3月限の終値は前日比0.32ドル高の58.68ドル、4月限の終値は同0.32ドル高の58.57ドル。

EIAによると、2月8日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.2セント値上がりの1ガロン2.461ドル(69.2円/ℓ)、ディーゼルは同6.3セント値上がりの2.801ドル(78.7円/ℓ)となった。ガソリンは11連続の値上がり、ディーゼルは14週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年1月31日～2月6日に休止したトッパー能力は29.3万バレル/日で、前週に対して1.7万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は294.2万klと、前週に比べ2.1万kl減少。前年に対しては28.4万klの減少。トッパー稼働率は76.5%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては5.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.9%増、ジェット/91.2%増、灯油/21.9%減、軽油/1.8%減、A重油/7.9%増、C重油/7.9%増。今週のC重油の輸入は10.8万kl(前週比2.8万kl増)。軽油の輸出は2.5万kl(前週比15.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェットが減少、その他の油種で増加となった。前年比では灯油、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は88.7万kl(対前週38.7%増)と3週振りに増加した。ジェット4.8万kl(対前週6.5%減)、灯油51.4万kl(対前週7.4%増)、軽油66.1万kl(対前週14.8%増)、A重油25.0万kl(対前週3.5%増)、C重油26.5万kl(対前週5.3%増)。

(単位:千kl)

	今週 (1/31 ~ 2/6)	前週 (1/24 ~ 1/30)	前週比
ガソリン	887	639	▲ 248 (39%)
ジェット燃料	48	51	▼ -3 (-6%)
灯油	514	478	▲ 36 (8%)
軽油	661	576	▲ 85 (15%)
A重油	250	242	▲ 8 (3%)
C重油	265	251	▲ 14 (6%)
合計	2,625	2,237	▲ 388 (17%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月6日時点の在庫は、ジェット、A重油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンが増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは200.7万kl、前週差11.2万kl減。前年に対しては22.2万kl多い。

灯油は186.0万kl、前週差20.2万kl減。前年に対しては4.1万kl少ない。

軽油は158.8万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては8.5万kl少ない。

A重油は73.3万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては0.3万kl少ない。

C重油は184.3万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては7.9万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (2/6)	前週 (1/30)	前週比
ガソリン	2,007	2,119	▼ -112 (-5%)
ジェット燃料	705	672	▲ 33 (5%)
灯油	1,860	2,062	▼ -202 (-10%)
軽油	1,588	1,618	▼ -30 (-2%)
A重油	733	725	▲ 8 (1%)
C重油	1,843	1,838	▲ 5 (0%)
合計	8,736	9,034	▼ -298 (-3.3%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月26日～2月1日の指標原油価格は前週(1月26日～2月1日)比で大きく値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比2.5円の値上げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

2月2日～2月8日の製品スポット市況は、1月26日～2月1日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近(2/2～2/8)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.8円の値上がり、灯油も1.4円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。直近週(2/2～2/8)において、ガソリンは104～105円台で値上がり、灯油は53円台で値上がり、軽油は53円台で値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(2/2～2/8)に、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(2/2～2/8)に、ガソリンは105～106円台で値上がり、灯油は51～53円台で大きく値上がり、軽油は54～55円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.6円の値上がり、灯油は2.3円の値上がり、軽油は2.4円の値上がりだった。先物価格は、同期間(2/2～2/8)に、ガソリン102～104円台で大きく値上がり、灯油51～53円台で大きく値上がり、軽油54～56円台で大きく値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (2/2～2/8)	前週 (1/26～2/1)	前週比
	レギュラー	51.2	49.4
灯油	53.5	52.1	▲ 1.4
軽油	53.6	52.4	▲ 1.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (2/2～2/8)	前週 (1/26～2/1)	前週比
	レギュラー	49.7	47.1
灯油	52.2	49.9	▲ 2.3
軽油	55.5	53.1	▲ 2.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/2～2/8実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 2.2
灯油	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 1.9
軽油	▲ 1.2	▲ 2.4	▲ 1.8
A重油	▲ 0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

2月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(2月1日)比0.3円高の139.6円、軽油も同0.4円高の120.1円、灯油は18%ペースで同5円高の1,499円(1%ペースでは同0.3円高の83.3円)。ガソリンは11週連続の値上がり、軽油も11週連続の値上がり、灯油も11週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは30道府県、横ばいは7県、値下がり10道府県だった。全国最安値は132.2円の徳島県(前週比0.2円高)、その次に安かったのは134.1円の岡山県(同横ばい)、最高値は148.3円の鹿児島県(同0.4円高)だった。最も値上がりしたのは同3.2円高の和歌山県(139.7円)、横ばいは山形県等7県、最も値下がりしたのは同1.2円安の愛知県(137.9円)だった。

今週(2月2日～2月8日)は、指標原油価格が大きく値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(2月11日～17日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比2.5円の値上がりとなった。次回調査時(2月15日)のガソリンの小売価格は、値上がり予想される。

次週(2月11日～17日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比2.5円の値上がりとなった。次回調査時(2月15日)のガソリンの小売価格は、値上がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (2/8)	前週 (2/1)	前週比	直近高値
	レギュラー	139.6	139.3	▲ 0.3
灯油	83.3	83.0	▲ 0.3	08/8/11 132.1
軽油	120.1	119.7	▲ 0.4	08/8/4 167.4

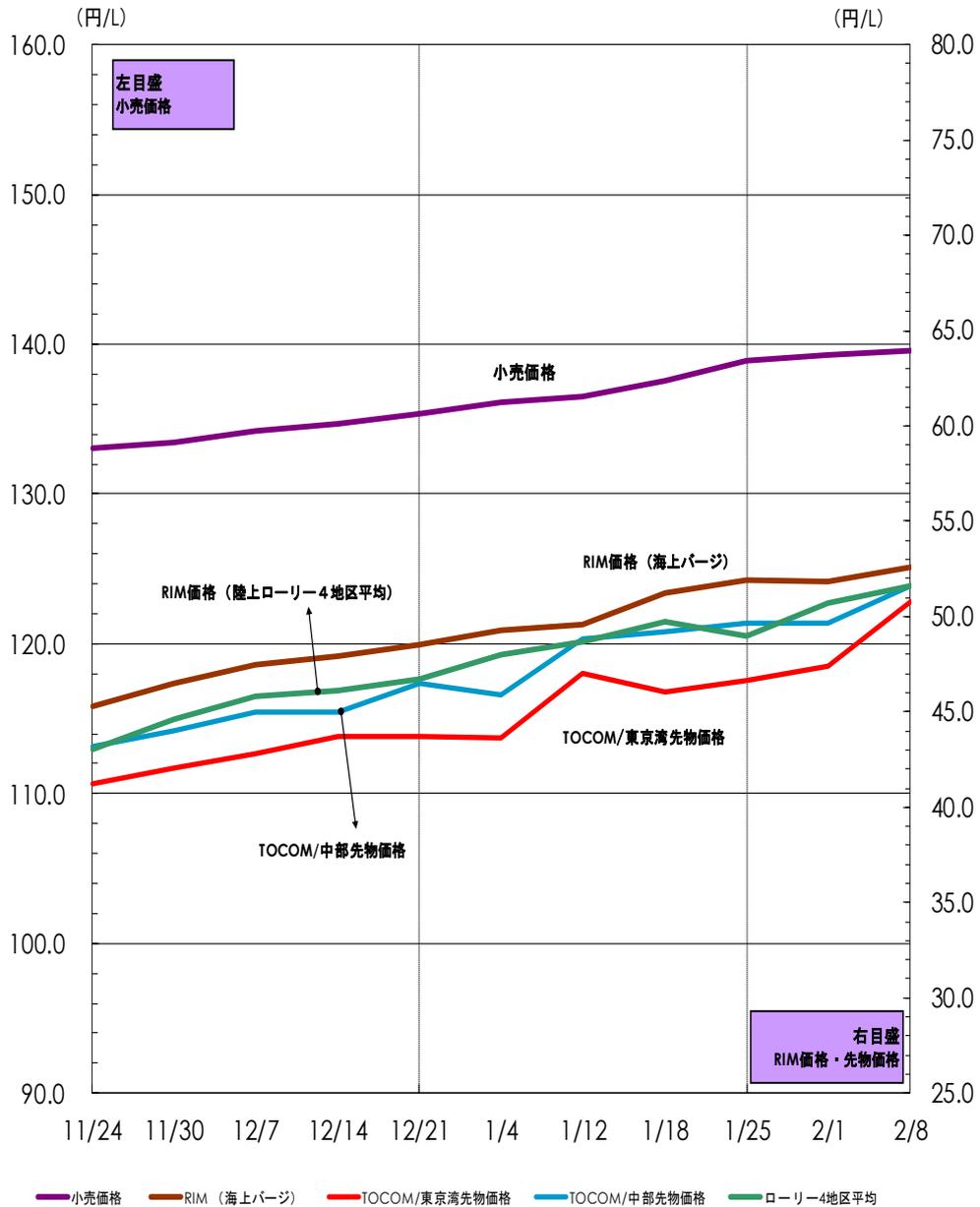
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/11/24 ~ 2021/2/8)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第32号)の公表は、2/19(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。